

東京都千代田区神田駿河台3-2-11
総評会館1階 原水禁気付
「さようなら原発1000万人アクション」
実行委員会
電話 03-5289-8224
FAX 03-5289-8223

さようなら原発 1000万人ニュース

第4号

2011年9月26日



六万人が集まり「さようなら原発」の声あげる 全国の市民が力を合わせて九・十九集会在成功

九月一九日午後、東京の明治公園で、「さようなら原発 五万人集会」が開かれました。

集会には、福島県から駆けつけた一〇〇〇人をはじめ、全国各地から市民団体・労働組合・個人参加者など、六万人が参加しました。日本の脱原発運動で、これだけ多くの人々が集まったのは初めてのことです。

集会では、呼びかけ人の大江健三郎さん、落合恵子さん、内橋克人さん、澤地久枝さんが、市民の力で政治を動かす脱原発を実現することを、力強く訴えました。

続いて、FOEドイツ代表のフーベルト・ヴァイガーさんがドイツ市民

からの連帯のあいさつを発表し、脱原発活動を続ける俳優の山本太郎さんが、原発の一斉停止を訴えました。

最後に、「ハイロアク ション福島原発四〇周年」の武藤類子さんが、原発事故以降に福島の人々が体験した出来事と、福島の人々がこれからどこに向かおうとしているのかを語りました。

集会終了後、参加者は、渋谷、原宿、新宿のコースに分かれてデモ行進を行いました。一コース二万人近いデモ行進は、道行く人々の注目を浴びました。

今号のニュースでは、集会の様子をダイジェストでお伝えします。

呼びかけ人とゲストの発言要旨

●鎌田 慧さん

野田首相は国連に行つて、「原発は安全性を高めて再開する」と演説するようです。

しかし安全性と信頼性は、破たんしています。それでも再開するというのは、人民への敵対です。いま八割近い人たちは、「原発はいやだ」、「原発のない社会に生きたい」と言っています。その声を無視して、政治ができるわけはありません。

どれくらいかの被ばく者が、被ばく労働者が発生しているのか。その救済を、少しでも始めていかなければなりません。

脱原発運動は、文化革命です。意識を変えていく運動です。核と人類は、絶対に共存できないのです。それは広島・長崎、そして今回の福島事故で証明されています。どうして、これ以上の犠牲者を作ることができるでしょうか。

私たちは、原発に「さようなら」を言います。それは、「また会う日まで」の「さようなら」ではありません。「もう絶対合わない」の「さようなら」です。それが、原発に対する、私たちのメッセージなのです。

●大江健三郎さん

私の先生の渡辺一夫さんは、次のように書きました。

『「狂気」なしでは偉大な事業はなしとげられない、と申す人々もおられます。それは、『うそ』だと思えます。『狂気』によつてなされた事業は、必ず荒廃と犠牲を伴います。真に偉大な事業は『狂気』に捕らえられやすい人間であることを人一倍自覚した人間的な人間によつて、地道になされるものです。この文書はいま、次のように読み直されうでしょう。

「原発の電気エネルギーなしでは、偉大な事業は成し遂げられないと申す人々もおられます。それは『うそ』だと思えます。原子力によるエネルギーは、必ず荒廃と犠牲を伴います」。

イタリアが、停止していた原子力発電の再開について国民投票を行い、反対が九割を占めました。それに対して、自民党の幹事長が、「あれだけ大きな事故があつたので、集団ヒステリー状態になるのは心情として分かる」と語りました。

イタリアで原子力計画が停止



したのは二五年前、チェルノブイリ事故がきっかけでした。それから長く考え続けられた上で、国民投票で決めることになつたのです。その段階で、福島事故が起こつたのです。

いま、はつきりしたことがありません。もうイタリアで、人間の命が原発に奪われることはない。しかし日本人は、これからも原発事故を恐れなければならぬということなのです。

私たちは、抵抗する意思を持つている。その意思を、政党の幹部や、経団連の実力者たちに思い知らせる必要があるのか。私たちに何ができるのか。この民主主義の集会、市民のデモしかないであります。

しつかりやりましょう。

●内橋克人さん

福島はもとより、日本中から、また世界から、たくさんの方が集まってくれました。ありがとうございます。

一つだけ、注意しなければならぬことがあります。それは、技術が進み発展すれば安全な原発は可能であるという、原発安全神話の新版、改訂版が台頭しつつあるということです。

地下深く原発を埋め込む、洞窟の中で原子力発電を続ける、こうした計画が進んでいるのです。そこまでして原発を持ち続けたいという意図の後ろに、何かがあるのでしょうか。それは、核武装が可能な潜在力を持ち続けようという政治的意図だと思えます。

合意なき国策が、ここまで進んできました。原発エネルギーではなくて、命のエネルギーが輝く、そういう国にしようではありませんか。

きょう、その一歩が踏み出されます。世界が変わると思えます。

「さようなら原発」、「こんにちは命輝く国」。その第一歩を、皆さんとともに、歩き始めましょう。



●落合恵子さん

ビートルズに、「イマジジン」という歌があります。「想像してごらん」から始まる歌です。

想像してください。子どもは、どの国の、どの社会に生まれるか、選ぶことはできないのです。

そして生まれてきた国に、原発があつて、暴走が起こつたのが、いまの社会です。

想像してください。福島の子どもたちのいまを。この国の子どもたちのいまを。

放射性廃棄物の処理能力を持たない人間が、原発を持つ事の罪深さを、私たちは叫んでいきましよう。



それは命への、自分を生きていこうという人への、国家の犯罪です。

容易に核兵器に変わり得るものを持つ事は、恒久の平和を約束した憲法を持つ国に生きる私たちは、決して許容してはいけません。

想像してください。まだ平仮名しか知らない小さな子どもが、夜中に突然起きて、「放射能こないで！」って泣き叫ぶような社会を、これ以上続けさせてはいけません。

私たちは、この犯罪に加担しないと約束しましょう。

●澤地久枝さん

希望とは、道を見出すべく残されているのは、自覚し考える個の確立と、個と個の連携、その広がり、つまりは市民運動ではないでしょうか。

きょうの集会の盛況と、一〇〇万市民の原発さようならの署名は、私たちが求める新しい国作り、世直しに、道を開くと思います。私はそこに希望をつなぎます。

特に女性たちに語りたと思います。きょうまで一人の戦死者も出さなかった戦後は、二度と戦争はさせないと決心した、戦争を体験した、日本の女たちの力だと思えます。

地球と命を守り、命を生み育む女性たちが、役割を果たす時は、いまです。血縁を問わず、国境を越えて、命を守る闘いには、夫・恋人・友人たちも同志に連なるでしょう。その周りには、私のような高齢の思いを同じくする人間がいることを、確かめあって進んでいきましょう。老若男女を問わぬ、人間の砦を築いていきましょう。

ここで負けることはできないのです。皆で一緒に、力を合わせていきましょう。

●フーベルト・ヴァイガーさん (FOEドイツ代表)

福島事故は、ヨーロッパの国々に変化をもたらしました。ドイツでは事故の後に大規模なデモが起こり、ついに政府は、八基の原子力発電所を停止し、他の発電所についても二〇二二年までに停止することを決定しました。二〇二二年には、最大の産産国の一つが、脱原発を実現するのです。

脱原発は、もはや、「できるのか」、「できないのか」の話ではありません。政治的に、「やるのか」、「やらないのか」の話なのです。電力会社の解体や、再生可能エネルギーの拡大によって、それは可能です。

私たちは、民主主義の下で、脱原発を声高く訴えていく時なのです。

半年前にこの国で起こったことは、日本でも他のどこでも、二度とくり返されてはなりません。そのために一緒に闘っていきましょう。また一緒に闘わなければ、電力会社の連合に勝つことはできないのです。

核兵器のない、原子力発電のない未来をともに実現しましょう。

●山本太郎さん (俳優)

すごい人ですね！ 本当に命を守りたい、生きていきたい、その気持ちが集まっているのだと思います。

三・一一以降、僕の人生も大きく変わりました。「生きていたい」と思ったのです。生きていないと、どうしようもない。それも、自分一人生きていてもしようがないのです。ここにいる皆さんにも、世界中の人たちにも生きていてもらわないと、意味が無いのです。

生き延びるためには、原発を一斉停止するしかないと思うのです。でも目の前の利益を守りたい者にとっては、その発言はものすごく目ざわりなのです。

一刻も早く、高濃度汚染地域から人々をサテライト疎開させる、そして原発を一斉停止させることが必要です。代わりのエネルギーはあるのです。電力は足りているのです。

一番必要なのは、人々の力、市民の力です。それぞれの選挙区で、代議士の事務所に行つて、プレッシャーをかけることです。その代議士の立ち位置を、はっきりさせるのです。



いま大人がするべきことは、子どもたちを守ることです。そのためには、行動を起こすことです。ぜひ力を貸してください。よろしくお願ひします。

福島からの訴え

●武藤類子さん

(ハイロアクション)福島原発四

○周年実行委員会

きょうは福島県内から、また避難先から、バスを連ねて、たくさん仲間と一緒に、やって参りました。初めて集会やデモに参加する人も、たくさんいます。それでも福島原発で起きた悲しみを伝えよう、私たちこそが「原発いらない」の声をあげようと、声を掛けあい、誘いあつてやつてきました。

◇ ◇
福島はとても美しいところで、東に紺碧の太平洋を望む浜通り。モモ・梨・リンゴと果物の宝庫の中通り。猪苗代湖と磐梯山の周りに黄金色の稲穂が垂れる会津平野。その向こうを、深い山々が縁取っています。山は青く、水は清らかな、私たちの故郷です。

原発事故を境に、その風景に、目には見えない放射能が降り注ぎ、私たちは被ばく者となりました。大混乱の中で、私たちには様々なことが起こりました。すばやく張り巡らされた安全キャンペーンと不安の狭間で、引き裂かれていく人と人と

のつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人が悩み、悲しんだことでしょうか。

◇ ◇
毎日、毎日、否応なく迫られる決断。逃げる、逃げない。子どもにマスクをさせる、させない。洗濯物を外に干す、干さない。何かにも申す、黙る。様々な苦渋の選択がありました。

◇ ◇
そしていま、次第に鮮明になつてきたのは、事実は隠されるのだ、国は国民を守らないのだ、福島県民は核の実験材料にされるのだ、大きな犠牲の上になお原発を推進しようとする勢力があるのだ、私たちは捨てられたのだ、ということでした。

◇ ◇
口をつく言葉は、私たちをばかにするな、私たちの命を奪うな、と悲しみの中から、静かに立ち上がっています。子どもたちを守るようと、母父が、おじいちゃん、おばあちゃんが。自分たちの未来を奪われまいと若い世代が。土地を汚された絶望の中から、農民が。放射能による新たな差別と分断を生むまいと、障がいを持った人々が。

◇ ◇
私たちは静かに怒りを燃や

す、東北の鬼です。私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島に土地に留まり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支え合つて生きていこうと思つていきます。私たちとつながつてください。私たちが起こしているアクションに、注目してください。政府交渉、疎開、避難、除染、原発と放射能についての学び。そしてどこにでも出かけて、福島を語ります。思いつく限りの、あらゆることに取り組んでいきます。私たちを助けてください。どうか福島を忘れないでください。

◇ ◇
もう一つ、お話ししたいことがあります。それは、私たち自身の生き方、暮らし方です。私たちは何気なく差し込むコンセンソトの向こう側を想像しなければなりません。差別と犠牲の上になり立っていることに、思いをはせなければなりません。原発は、その向こうにあるのです。

◇ ◇
人類は、地球に生きる、ただ一種類の生き物にすぎません。自らの種族の未来を奪う生き物が、他にいるのでしょうか。私は、この地球という美しい星と調和した、まっとうな生き物として、生きています。ささやかでも、

エネルギーを大事に使い、工夫に満ちた、豊かで創造的な暮らしを紡いでいきたいです。どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。だれにも明確な答えは分かりません。

◇ ◇
できることは、誰かが決めたことに従うのではなく、一人一人が、本当に、本当に、本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができることを決断し、行動することだと思つています。

◇ ◇
私たちは誰でも、変わる勇氣を持つています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。原発をなお進めようとする力が垂直にそびえる壁ならば、限りなく横に広がりつながら続けていくことが、私たちの力です。たつたいま、隣にいる人と、そつと手をつないでみてください。見つけ合い、お互いの辛さを聞きあいましょう。涙と怒りを許しあいましょう。

◇ ◇
私たち一人一人の、背負つていかなければならない荷物、途方もなく重く、道のりがどんなに過酷であっても、目をそらさずに支えあい、軽やかに、朗らかに、生き延びていきましよう。

事務局より

▼九月一九日の明治公園には、たくさんの人々に集まつていただきました。本当にありがとうございます。本せつかく来ていただいたのに、集会場に入れなかった方、デモ行進の出発に二時間以上待った方など、申し訳ありませんでした。▼集会参加者は約六万人です。これだけ多くの人々が「原発いらない」の声を上げたことは、日本の政治家たちに大きなプレッシャーを与えたはずですが、▼山本太郎さんが訴えましたが、自分の選挙区の国会議員に、「あなたは原発反対？賛成？どっち」と突きつけていくことが今後は重要になると思ひます▼国会議員に対するプレッシャーの総まとめが、一〇〇〇万人署名です。日本の総人口は一億三〇〇〇万人。人口一三分の一の署名が実現すれば、国会議員は無視することはできません。皆さんのご協力をお願いいたします。